令和3年度厚生労働省補助金事業
看護業務効率化先進事例収集・周知事業

看護業務の効率化 先進事例アワード 2021

特別賞

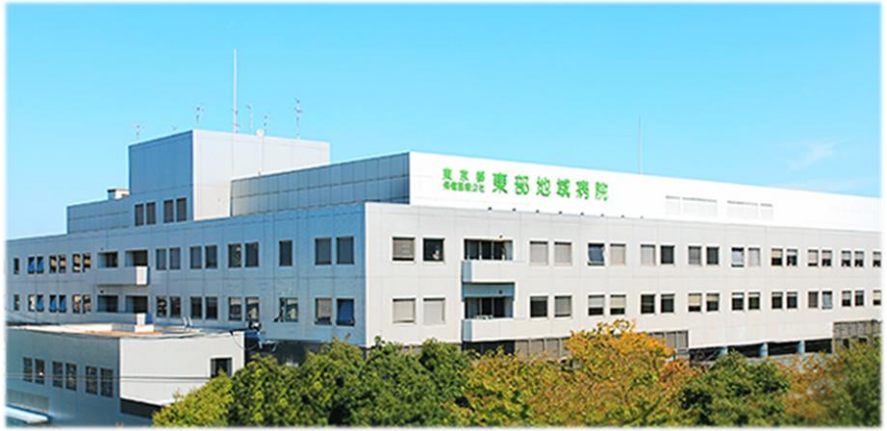
公益財団法人 東京都保健医療公社 東部地域病院

看護部働き方改革プロジェクト：

「繁忙度表」を活用した「看護師長の病床・業務調整会」による人員の采配と応援体制づくり

公益財団法人 東京都保健医療公社

東部地域病院



地域医療連携を推進します。
医療水準の維持・向上に努め、
地域の医療ニーズに的確に対応します。
患者さんの権利を尊重し、
こころ温まる医療を提供します。
経営基盤の健全化を図ります。

所在地	東京都葛飾区
病床数	314床
職員数	356名
うち看護職員数	238名

課題・背景

「新型コロナウィルス感染症専用病棟（以下、コロナ病棟）」の開設に伴い、一般病棟が再編成され、多くの診療科の患者が入院する混合病棟となった。

上記に伴う問題

- **一般病棟は予約入院、手術、検査などが集中し、さらに繁忙となる**
- **1年間に6回も行われた病棟編成により、職員の疲弊が増大**
- **緊急入院は15時過ぎが多く、病棟は予定された業務と重なるなどし、時間外業務が常態化**

一般病棟・コロナ病棟・ICU病棟は、それぞれ日々の繁忙状況に差があり、時間外業務時間にも差が生じている状況だった。

看護師長全員が各部署の繁忙状況を把握できる体制をつくるため、コロナ病棟と一般病棟・ICU病棟を合わせた繁忙度表を作成。
繁忙度表をもとに緊急入院・応援看護師の的確な采配を行い、時間外業務の削減を目指す。

補足＊応援看護師とは、応援体制において他部署へ行き業務を行う看護師のこと

目的・目標

1 院内各部署の繁忙度を看護部全体で共通し
円滑なベッドコントロールを行う

2 **繁忙度に応じた人員の采配・応援体制の確立**

3 看護部全職員・部署間で助け合い、繁忙度表を活用した人員の采配により
時間外業務を削減

取り組み内容　上記の目標達成のため、以下の取り組みを実施

繋忙度表を作成し、業務の可視化

取り組みの流れ

2019年

プロジェクトチームの発足

・看護師長、主任がメンバーとなり繁忙度表作成の研修会を実施
・系列病院の繁忙度表を参考に現状分析開始

朝会の導入

・毎朝10時、各病棟の責任者が集まり各病棟の状況を共有

2020年

コロナ病棟開設

・コロナ病棟の開設に伴い、一般病棟が再編成される
・一般病棟：コロナ病棟：ICU病棟の繁忙状況の差が顕著に

現状分析・アンケート調査

・繁忙状況や繁忙度表の点数重み付けに関する調査（半年に１回程度）

繁忙度表の作成・運用

・アンケート調査を基にした繁忙度表の作成と運用を行う
・感染症の拡大状況などによる5-6回のシートの見直しを行った

応援体制の確立

・繁忙度表を基にした各病棟への応援体制の確立
・応援体制の中での教育体制の構築も進められる

1｜繁忙度表の作成

（図 1）繁忙度表

＊病棟の定数：ICU6 床、A 病棟 45 床、C 病棟 40 床、D 病棟 40 床
E・F・G はコロナ専用病棟各 20 床、B 病棟は当時閉鎖中（40 床）
※令和3年6月2日現在

2021年6月2日(水)

	ICU	A病棟	B病棟	C病棟	D病棟	コロナE病棟	コロナF病棟	コロナG病棟	計
在患者数（8時現在）	4	33	0	28	33	13	11	14	136
担送・護送・独歩（*2）・（*1.5）・（*1）	8	44.5	0	38.5	47.5	16	15.5	18	188
前日0時看護必要度対象者数（*1.5）	0	0	0	0	0	0	0	0	0
予約入院（*3）		12	0	24	12	0	0	0	48
退院	0	4	0	4	3	0	0	0	11
緊急入院（*3）	6	6	0	0	3	3	6	9	33
ICU転入（*2）	0	0	0	2	2	0	0	0	4
病棟転入（*1.5）	0	1.5	0	0	1.5	1.5	0	0	4.5
手術帰室 心カテ(PCI)・アンギオ（*2）	0	8	0	2	4	0	0	0	14
心カテ ESD・ERCP・輸血・ケモ	0	1	0	3	3	0	0	0	7
繁忙度数	49.0	77.0	0.0	73.5	76.0	35.9	37.6	47.3	309.5
スタッフ状況	7	8		9	11	7	10	8.5	
助勤可能な時間						ALL	ALL	PM	
助勤可能な人数						2	2	1	

備考・メモ		
部署	状況	助勤の有無
OP	PM可	○
看護相談	要相談	○
外来	PM要相談	○

助勤

E病棟 ➡ A病棟Ns1
F病棟 ➡ A病棟Ns2
E病棟 ➡ D病棟Ns1
E病棟AM ➡ C病棟NS1
➡
➡
➡
➡
➡

【入力シート】 ※入力はこちらにしてください！上段は入力不可！

担送・護送・独歩	担送*2	護送*1.5	独歩*1	総得点	看護必要度対象患者	予約入院	退院	緊急入院	ICU転入	病棟転入	手術PCI/AG	侵襲の伴う検査、治療
ICU	4		0	8		0	0	2	0	0	0	0
A病棟	6	11	16	44.5		4	4	2	0	1	4	1
B病棟				0								
C病棟	6	9	13	38.5		8	4	0	1	0	1	3
D病棟	7	15	11	47.5		4	3	1	1	1	2	3
コロナE病棟	2	2	9	16		0	0	1	0	1	0	0
コロナF病棟	3	3	5	15.5		0	0	2	0	0	0	0
コロナG病棟	2	4	8	18		0	0	3	0	0	0	0

各部署の業務状況を可視化

各部署の日勤帯の**業務状況を可視化**できるように各項目を点数化

- 患者数
- 看護業務
- 検査
- 手術 など

院内のポータルサイトに格納し、看護師長がいつでも閲覧可能

運用方法

■入力：繁忙度表は当日夜勤明けの看護師長が入力
※変更があれば日勤の各部署看護師長またはリーダーが入力

■把握：**病床・業務調整会(以下 朝会)の実施**(平日毎朝10時)。各部署看護師長が参加し、業務量・勤務人数を把握し、**応援可能な病棟から看護師を派遣**

活用方法

■繁忙度：毎月看護師長に報告、各部署との比較
■時間外業務時間：前年度比較

仕様

■業務の入力／病棟ごと
①救護区分人数：担送・護送・独歩
②予約入院/退院の患者数
③転棟患者数
④手術数
⑤侵襲のある検査数(心カテ・アンギオ等)
⑥化学療法件数
＋
観察時間
- 15分以内
- 15～30分
- 30～60分

※8時点の想定で日勤の看護師長が入力

点数の設定

■各病棟の看護配置と重みづけ
・一般病棟(7：1)　総合点に×1
・コロナ病棟(4：1)　総合点に×1.75
・ICU病棟(2：1)　総合点に×3.5

■各業務の点数
・担送人数×2
・護送×1.5
・独歩×1
・入院人数×3
・手術件数×2
・輸血・化学療法×1

点数の重みづけについて

■業務の入力/病棟ごと
・病棟ごとで得点に差▶ **看護配置に応じて点数を調整**
・侵襲のある検査項目の変更▶**化学療法患者も得点に加算**
・重症度、医療・看護必要度▶**リアルタイムでの測定不可：表から削除**
※点数見直しアンケートを実施(1回/半年：看護師長・主任 対象) し、
朝会で反映や見直しを行う

2｜応援体制の確立

応援看護師の采配

・毎日の朝会で繁忙度表の点数、日勤勤務者に応じて繁忙度表の点数が低い病棟から高い病棟へ采配
・緊急入院時、必要に応じて応援可能な病棟から看護師を派遣
・空床の確認や緊急入院の優先部署を予め予告し、調整を各部署に依頼する

応援看護師の活用

PNS(Partnership Nursing System)のリシャッフル機能※を活用し、病棟看護師1名+応援看護師1名(看護師2名)でケア・緊急入院対応にあたる。そうすることで、応援看護師が応援先での業務を迷うことがなくなる。繁忙度が低い日は新人看護師と共に応援に行き、新人の育成にも活用できる。

※リシャッフル機能：PNSのペアを組み替え、業務の調整をすること

1｜業務に要する時間の短縮

病床管理担当看護師長※のラウンドの時間短縮（40分➡15分）

繋忙度表に状況が入力されているので、確認程度で済む

※病棟を受け持たず病棟管理を担当する看護師長

各部署の看護師長は応援看護師の依頼を省略

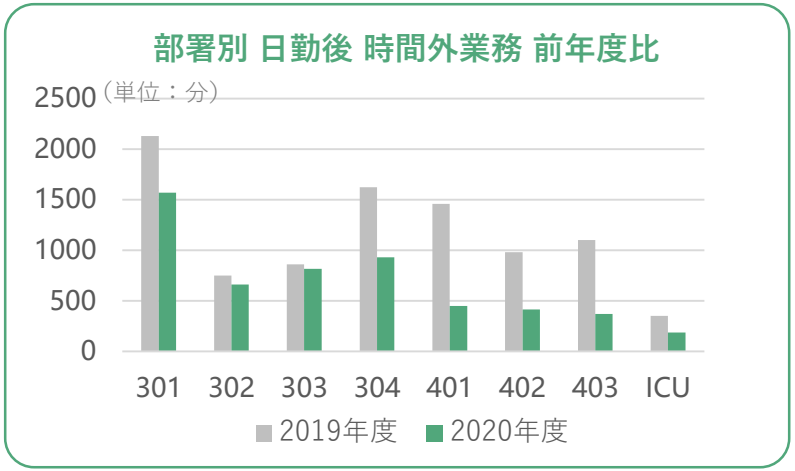
朝会で応援看護師の采配を行うので、各部署が個別で申し出る必要がなくなる

2｜時間外業務の削減

病棟看護師時間外業務（日勤総計）

9,228時間(2019年) → **5,420**時間(2020年)

繋忙度表により業務の可視化を行い、適切な応援体制が確立したため、時間外業務が短縮し、その分の人件費が削減された。

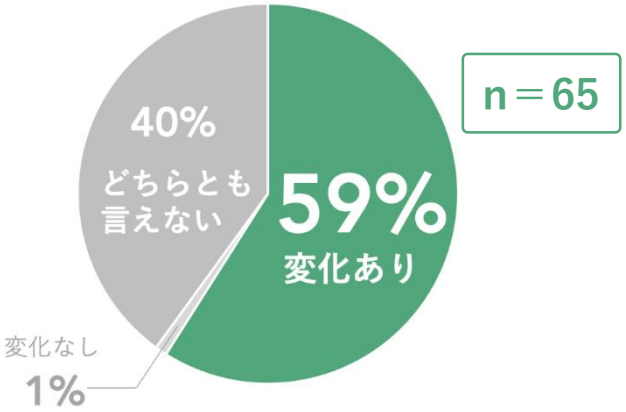


3｜看護師の精神的負担の軽減

繁忙度表により、他部署の業務内容（繁忙度）が可視化され、各部署の業務の不公平感が緩和された

Q.「自部署」だけが忙しいという思いに変化があったか

変化あり **59**%



4｜看護師の人員配置の最適化

繁忙度表の活用による応援看護師の采配で、繁忙度が高い部署への配置が可能になった

5｜チーム連携の向上

他部署の繁忙度が可視化されたことにより、**看護師の自主性が向上**
朝会で自主的に「応援に行きます」といった発言が聞かれるようになった

2021年6月の部署別繁忙度数

	1	2	3	4	7	8	9	10	11	14	15	16	17	18	21	22	23	24	25	28	29	30	
部署	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	木	金	月	火	水	平均
A病棟	75.0	77.0	90.5	83.5	78.0	77	88	84.5	83.5	68	93	99.5	80	67	55	53.5	62	69	52.5	58	67	67	74.0
B病棟	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	37.5	30	39	52	56.5	63	57.5	66	50.2
C病棟	62.5	73.5	78.5	65.0	61.0	63	72.5	81.5	63	74	75.5	80	74	60.5	69	83	68.5	71.5	62	43	53.5	61	68.3
D病棟	59.0	76.0	69.5	78.0	71.0	79.5	86	72	83.5	67.5	78	75.5	68	69	42	49	43	34	54	46	59.5	54.5	64.3
E病棟	36.8	35.9	48.1	49.0	42.0	41.1	35	31.5	39.4	19.3	21.9	43.8	42	49.9	47	42	39.5	32	29	37.5	31	42	38.0
F病棟	69.1	37.6	41.1	35.0	55.1	21.9	34.1	45.5	31.5	22.8	23.6	36.8	32.4	21.9	25.4	28	29.8	21	42.9	28	32.4	33.3	34.1
G病棟	42.0	47.3	48.1	37.6	40.3	37.6	28.0	36.8	30.6	27.1	27.1	28	40.3	18.4	26.3	32.4	41.1	47.3	28.9	40.3	40.3	45.5	36.0
ICU	38.5	49.0	66.5	28.0	42.0	31.5	17.5	50.8	42.0	14.0	31.5	7.0	29.8	21.0	33.3	56	24.5	42	35	21	66.5	22.8	35.0

6｜有給休暇消化率の差の減少

有給休暇消化率が低い部署に優先して応援に行き、その部署の勤務者を休みにすることで消化率の部署間の差が減少

今後の展望

1 繋忙度表は、時期、状況により変化があるため、**朝会、看護師長・主任・リーダー看護師へのアンケートやヒアリングで随時見直しをする**

2 業務時間の重なる部署もあるので、現在10時に実施している**朝会の時間を可能な限り9時台に早める**

導入のポイント

1｜点数の公平感の擦り合わせ

「業務（繁忙度）の可視化」が目的なので、擦り合わせは最重要
アンケートやヒアリングで随時見直す

2｜応援先での業務の統一

〇部署ごとで業務方法が違うことがままあるので、統一する
〇応援看護師を一人にせず、PNSのリシャッフル機能を活用して動くこと